

協 見 民 山 築 報

発行・秋田市築山地区民生児童委員協議会

私たちの信条

- ・隣人愛を^い抱き、社会福祉を増進
- ・常に地域社会の実情を把握
- ・生活相談誠意対応、自立援助
- ・明朗で健全な地域社会づくり
- ・公正を旨とし、人格識見の向上

支えあう 住みよい社会 地域から

築山地区民生児童委員協議会

会長 佐々木 洋吉

日頃より地区の皆様には、民生委員・児童委員の活動に深いご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

民生委員制度は、平成 29 年に 100 周年を迎えました。今現在は急速な少子高齢化、核家族化などに伴って、認知症や老介護といった、個々の力では対応に限界がある、様々な問題が起きています。そうした問題の悩みを抱える人達に寄り添い、

専門的な解決機関へつなぐ役目を持つ私たちは、月に 1 回の定例会を中心に、委員同士との協議を通じて、情報の共有を図っている他、関係機関が実施する各種研修会に参加して知識を得ております。

委員は「守秘義務」があります。相談内容が他に漏れることはありません。何時でも気軽に相談ください。

県民生児童委員協議会会長研修会（報告）

副会長 鈴木 夏代

「行政説明」

本年 4 月に社会福祉法が一部改正されます。
(概要) 地域福祉を取り巻く現状と施策の推進として重層的支援体制整備事業(任意事業)が創設されます。
(趣旨) 地域共生社会の実現に向けた地域づくりの強化方策として、住民課題の複合化・複雑化が進み、単独の支援機関での対応が困難となってきたため、相談者の属性・世代・相談内容に関わらず、各関係機関が連携強化を図りワンストップ型の包括的な支援体制を目指すものです。

「実践発表」

平成 29 年に民生委員制度創設 100 周年を迎え、全国民児連では更なる発展に向けた取り組みとして「単位民児協活動強化方策」を展開。築山民児協も定例会で地域課題への対応策や今後の指針となる活動強化方策を策定しました。
研修会では県内 5 地区の代表者の発表が行われ、各地区の実情を踏まえた「わが町ならでは」の具体的な取組方策は、地域力の強化となり、今後の民生委員活動の目標となる実践発表でした。

クリスマスお楽しみ会 きりんクラブ

平成 14 年から、当民児協児童福祉部が児童センターに於いて活動を続けている子育てサロンが、新型コロナウイルス感染症予防のため昨年 4 月に初めての中止を余儀なくされました。子育て家庭の交流の場が確保できずに大変危惧をしましたが、12月16日(水)に今年度初めてのサロン「クリスマスお楽しみ会」を開催することができました。

待ち望んでいたサロンにみんなが再会を喜びあい、子どもたちは元気いっぱい遊び、大型絵本の読み聞かせには目を輝かせ、サンタさんからの「クリスマスプレゼント」に大喜びとなり、会場全体が心温まる雰囲気になりました。

子育てサロンの活動目的は、核家族化の進行により孤立する子育て家庭を防ぎ、支援が必要な家庭には適切なサービスへと



結びつけて、地域の中で子どもの健やかな育成を支えることを目指しています。
(児童福祉部) 鈴木 夏代

新任委員研修

三浦 五郎

令和 2 年度のステップアップ研修を受講しました。研修では、秋田たすけあいネットあゆむの保坂理事長から「子どもの貧困と支援方法について」と題し講演がありました。

その中で、こどもの貧困率が 7 人に 1 人、30 人クラスで 4 人が貧困という現状報告に大変驚きました。

家庭での学習時間も保護者の年収により異なり、高ければ長く、低ければ短時間で終了するということや、生活保護世帯に属する子どももの進学率等に関しては、全国と比較し秋田県は高校生の中退率が高いという報告もありました。

「秋田たすけあいネットあゆむ」では無償の学習室や学習塾を開校していることや秋田市近郊の中学・高校の制服リユース(もちろんきちんとして洗濯)も行っているそうです。

また、月に 1~2 回、金曜日の 18:00~20:00 の間「親子食堂」を開店しております。

秋田県職親事業所
住所・秋田市桜字桜谷地 16-1

この一年を振り返って

2019年に新たに委員に就任された三浦、阿部委員にこれまでの活動を振り返っていたきました。

この地区の前任民生委員からの勧め(説得?)で民生委員になつて早いもので一年が経ちました。今住んでいるこの地に居を構えてから18年が過ぎ、子どもたちもそれぞれ独り立ちし、40年近く勤めた職場も離れるタイミングでのお誘いに多少の戸惑いと不安を感じながら、「地域への恩返し」のつもりで引き受けさせていただきました。

市役所での委嘱状伝達式で受け取った2枚の委嘱状には厚労大臣 加藤勝信、もう1枚には秋田市長 穂積志の氏名と印が押されており、ちよつとした高揚感と裏腹に民生委員の活動がどんなものかもよく理解していない自分に務まるのかと些かな不安を感じながらのスタートとなりました。

前任の民生委員からは、支援が必要な人の相談相手や関係機関による支援の「つなぎ役」とのアドバイスを受けたものの、月一回の定例会では担当地区内や社会福祉についての浅学非才を痛感させられました。

まずは、活動スキームの把握と理解が肝心との思いから、関係機関が主催する研修会に参加させていただきました。新任研修会では、法に基づく職務と活

動について学び、秋には新任委員ステップアップ研修会等では高齢者の現状、児童の虐待や貧困について学ぶ機会を得ることが出来ました。

コロナ禍で訪問活動も十分と言えませんが、引き続き自分のスキルを高め先輩委員の指導・助言をいただきながら「つなぎ役」としての活動に努めていきたいと思えます。

「阿部 豊」



「三浦 五郎」

民生委員・児童委員の委嘱状伝達式から一年が過ぎました。委員の活動・役割はどのような事をするのか、まったく解りませんでした。ちなみに近所のお年寄りの面倒を見てあげたら喜ばれるかも? 自分自身も後期高齢者なのにないつまで続くやら!

毎月の定例会においては、多くの書類が配布されます。その資料を見ると、やはりどの町内にも高齢者の世帯が多いという数字が並んでおり、秋田県は高齢者の割合が全国でも上位に位置しているということに改めて実感しております。

この一年は、コロナ禍で訪問する機会も多くありませんでしたが、研修会などに出席し、災害支援などについての知識を得たほか、児童虐待、ひとり親世帯、ひきこもりなどの実態についても学びました。

現在の場所です仕事を始め40年以上になりました。周りにはこのような事例は見当たらないような気がしますが、これからも地域社会との連携を大切に頑張っていきたいと思えます。

最後に、佐々木会長を始め、委員の皆さんには日ごろのご指導に感謝申し上げます。今後ともよろしく願います。

目指せ!! 元気高齢者

委員になつて4年が経過しました。委員就任当初、「こんには、民生委員の工藤です」とドキドキしながら同じ町内の顔見知りのお姉さまを訪問した時、ドアが開いての最初の一言が「あんた人相悪いね」でした。モニターに映った私の顔が怪しげに見えたのでしょうか。それ

とも素顔が悪いのか。さらに「訪問するときは笑顔で、できればいつでも笑顔で」というご指導がありました。

また、ある日の別のお宅への訪問では、「膝が痛くて」と言うご婦人に「私も最近膝が痛いんですよ」と言ったら、間髪を入れず「あんた太り過ぎよ、最近、おなかが出てきたんじゃない」と、これまた厳しい一言が。さらに、町ですれ違ふと「もつと背筋を伸ばして歩きなさい」とご指摘が。地域の高齢者の皆様から励まされ委員活動を続けている日々です。

日々の行動と言えば、4年前に始めたラジオ体操があります。近所の公園で雨が降らない日は毎日集まって体を動かしています。参加者は年配の方が中心ですが、皆さん元気なこと。さわやかな早朝の空気の中、体(身)の健康とともに、皆さんとの弾む会話が心の健康にも大いに役立っています。

さらに、私の必需品に万歩計があります。伊能忠敬の日本一周ですが、これが何と海岸線を一周するものです。2年半前に、お江戸日本橋を出発し、太平洋側を北上。現在、青森県を通過し、北海道を反時計周りに襟裳岬に向けて邁進中です。これまでの歩行距離は3千6百kmを越え、次の秋田まで残り2千kmとなりました。

法律の定義では65歳〜74歳



を前期高齢者、75歳以上を後期高齢者というようですが、年齢に関係なく心身とも「元気高齢者」を目指しましょう。今日も「雲は沸き光溢れて……」と口ずさみながら、笑顔で、腹をへこまし、背筋を伸ばして颯爽と出かけるつもりでいます。

(工藤 裕紀)

編集後記

今、私たちがおかれている新型コロナウイルス菌による新しい生活の体験も、もう一年がたちました。どうしたら良いのか考える間もなく、子どもたちは新しい学校生活のパターンに慣れ、大人は大人でそれぞれの暮らし方を身につけ、これでいいのだという気持ちになつていの方が多いかも知れません。▼私たちには昔からパンデミックと呼ばれる世界的な疫病の流行と共に死と隣り合ってきた歴史があります。つい100年前にはスペイン風邪と言われた急性インフルエンザの流行で多くの人が亡くなつています。▼難しい、面倒くさいと毎日の生活を「適当」にしてしまうのが一番怖いことだと思つていきます。出来ることを一つ一つ続けて行きませんか。

(広報情報部 妹尾 弘)